


平成 30 年 1 月 31 日

滋賀県内経済情勢報告

(平成 30 年 1 月判断)

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」






項目	前回 (29 年 10 月判断)	今回 (30 年 1 月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	緩やかに回復しつつある	

(注) 30 年 1 月判断は、前回 29 年 10 月判断以降、30 年 1 月に入ってからのもとの状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は持ち直しているほか、生産活動は回復しつつあり、雇用情勢は着実に改善しているなど、県内経済は全体として、緩やかに回復しつつある。

【主な項目の判断】

項目	前回 (29 年 10 月判断)	今回 (30 年 1 月判断)	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、 緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	持ち直している	回復しつつある	
雇用情勢	着実に改善している	着実に改善している	
設備投資	29 年度は前年度を下回る計画となっている	29 年度は前年度を下回る計画となっている	
企業収益	29 年度は増益見通しとなっている	29 年度は増益見込みとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売額は、衣料品等が引き続き低調なことから、全体では前年を下回っている。

コンビニエンスストア販売額は、カウンター商品が堅調なことなどから、前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、飲食料品などが好調なことから、前年を上回っている。

家電販売額は、テレビやエアコンなどの大型家電が好調なことから、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、新型車を中心に軽自動車为好調となっているものの、普通・小型車が前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

(主なヒアリング結果)

- 食料品は競合他社との価格競争による値合わせから、一品当たりの単価が下がり、10月の売上は前年を下回ったものの、11・12月はクリスマスや正月などに合わせて品質のよい商品を求める傾向が強くなることから、前年を上回った。
(スーパー・大企業)
- 衣料品については、婦人服を中心に低調な状況が続いている。当店でもブランドの撤退が進んでおり、全国的にアパレル業界の停滞が感じられる。
(百貨店・大企業)
- ドラッグストアやスーパーなどの新規出店が影響し客数が減少しているものの、店内調理品等のカウンター商品は引き続き好調であり、客単価も増加するなど、総じて堅調を維持している。
(コンビニエンスストア・大企業)
- 売上、客数とも前年を上回った。商品別ではレトルト食品などの飲食料品が好調であった。
(ドラッグストア・大企業)
- オリンピック需要や地上デジタル放送への切り替え後の買い替え需要期の到来などから、テレビやエアコンなどの大型家電の売れ行きが良かった。
(家電量販店・大企業)
- 足もとでは人気車種(軽自動車)のフルモデルチェンジがあったことから、好調な需要状況となっている。
(自動車販売店・中小企業)

■ 生産活動 「回復しつつある」

鉱工業指数(生産)で見ると、海外での好調な家電需要から、電気機械が上昇しているほか、化粧品等の需要増から、化学が上昇しているなど、全体では回復しつつある。

- アジア地域においてドライヤーや炊飯器等の高付加価値商品の販売が好調であることなどから、前年同期を上回る売上となる見込み。
(電気機械・大企業)
- インバウンドによる化粧品需要や新商品の販売のタイミングが重なったことなどもあり、生産設備は例年と比べ、高稼働となっている。
(化学・大企業)
- 中国やインドネシアでの現地生産化や新車導入の効果により同国での自動車の販売台数が伸びていることから、当社の部品需要も増加している。
(輸送機械・大企業)
- 工作機械受注額が過去最高を更新する市場環境の中において、当社製品の引き合いも強いものの、製品に使用する部品の納期が伸びていることなどから、受注を見送る案件もあり、売上ベースでは前年を下回っている。
(生産用機械・中堅企業)
- 今年は昨年に比べ冷え込みが強く、季節商品を扱っていることから売上ベースでは前年を上回った。なお、労働コストの増加による利幅の減少など厳しい面もある。
(繊維・中小企業)

■ 雇用情勢 「着実に改善している」

有効求人倍率は6か月連続で1.3倍台の水準となっている。新規求人数は前年を上回っており、完全失業率も低水準となっているなど、雇用情勢は着実に改善している。

- 近年の売上の伸びに応じて生産ラインをフル稼働させているが、人手不足のため各ラインに優先順位を付けて人員を配置し対応している。
(金属製品・中小企業)
- 募集してもなかなか応募がない状況が続いており、慢性的な人手不足感がある。また、継続的に募集していることから、コストも増加している。
(小売・大企業)
- 運送業界での規制が厳しくなっていることから、運送ドライバーの確保が難しくなっている。
(運輸・中小企業)
- 正社員の有効求人倍率が統計史上最高値となっている中で、非正規雇用から正規雇用への登用を進める企業が増加しており、正規雇用への登用のハードルを下げるなど、労働力の確保について工夫を凝らしている。
(官公庁)

- **設備投資** 「29年度は前年度を下回る計画となっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」29年10-12月期
 - 製造業では、生産用機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る計画となっている。
 - 非製造業では、小売などが前年度を下回っていることから、全体では前年度を下回る計画となっている。

- 国内や欧米での好調な建機需要に合わせて生産能力を増強するため、工場の増床を計画。(生産用機械・大企業)
- 人手不足や建設コスト高の影響から今年度の新規出店は抑制する計画。(小売・大企業)

- **企業収益** 「29年度は増益見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」29年10-12月期
 - 製造業では、生産用機械などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、卸売・小売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 「前年を上回っている」
新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅などが増加していることから、全体では前年を上回っている。
- **公共事業** 「前年を大幅に上回っている」
前払金保証請負金額でみると、県などで減少しているものの、市町などが大幅に増加していることから、全体では前年を大幅に上回っている。
- **企業の景況感** 「下降」超となっている (全産業)「法人企業景気予測調査」29年10-12月期
企業の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては、「下降」超幅が拡大する見通しとなっている。
- **企業倒産** 「件数は前年を上回っているが、負債金額は前年を下回っている」
倒産件数は前年を上回っているが、負債金額は前年を下回っている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 Tel.077-522-6455